

## 2022 年度実施状況等調査報告書

調査団体	公益財団法人 神戸国際コミュニティセンター (KICC)
事業名	「留学生と取り組む SDG's in KOBE」
調査日時	令和 4 年 8 月 6 日 (土)
実施形態	対面
報告事項	<div data-bbox="1161 183 1485 427" data-label="Image"> </div> <p>配布資料</p> <p>1. イベント見学について (13 時 30 分～15 時 30 分)</p> <p>1) イベント名:「BOSAI カフェ」</p> <p>2) 参加対象: 大学及び日本語学校の外国人留学生、地域の外国人、地域住民等日本人</p> <p>3) 参加者数: 25 名 (うち、外国人留学生 8 名、地域の外国人 11 名)</p> <p>4) 概要:</p> <p>受付には常時 1 名以上スタッフがおり、受付時に消毒・非接触検温を行っていた。</p> <p>本イベントは、本事業の防災に係る全 3 回シリーズの第 1 回として開催され、4 部構成で、全て日本語で行われた。第 1 部は、神戸市危機管理室佐藤氏より、「自然災害に備えましょう」というテーマでセミナーが行われた。地震や大雨等の災害の説明については、地元長田区の実際の写真や図、グラフを用いて説明され、時々講師が参加者に対して「自然災害が起こった時、何をしますか？」等、問いかけていた。また、情報収集の手段として「ひょうご防災ネットアプリ版」や「KOBE 防災ポータルサイト」について紹介があり、講師が参加者にサイトへのその場での登録を促していた。阪神・淡路大震災の教訓から「自助」「共助」が大切である旨、また、避難所の把握やローリングストックといった日ごろからの準備が大切である旨が説明され、参加者が時折頷く様子が伺えた。第 2 部及び第 3 部においては、神戸学院大学社会連携部前田氏及び防災女子代表小山田氏により「災害時に役立つポリ袋調理について学ぼう」と題したセミナーが行われ、ポリ袋調理としてふわふわ蒸しパン体験講座及び災害時の食事について説明された。調理前の休憩時間ではスタッフが室内の窓を開けて換気を行い、机の消毒を行っていた。休憩後、4 人 1 チームで協力してふわふわ蒸しパンを作った。蒸している間に、災害時の栄養問題や備蓄の重要性及び BOSAI レシピの 5 つのポイントについて講師より説明があった。第 4 部は長田消防署高岡氏により、110 番や 119 番、7119 番や多言語対応状況等について説明された。イベント終了時には、データ又は紙でのアンケート回答時間が設けられた。アンケートに回答した者から順番に防災や消防署に関わる土産をもらう仕組みとなっており、アンケート回収に係る工夫が見て取れた。</p> <p>イベントは、参加した者から日本語がわからない同じ言語圏の人に内容を伝えてもらうというコンセプトの下、全て日本語であったため、セミナースライドはひら仮名や振り仮名、英語併記といった工夫がされていた。また、講師の日本語の話し方が早い場合は、参加した留学生等が理解できるようにゆっくり話すようスタッフが講師に合図を行っており、スタッフの心配りが伺えた。講師も参加者への問いかけに際し、参加者の反応が鈍い場合には質問の仕方を変えることで、参加者が取り残されないように工夫していた。また、資料についても可能な限り参加者の母語に訳された資料を配布するように工夫されていた。全体として、講義・体験・交流の要素が織り交ぜられており、参加者は飽きずに必要不可欠な防災学習ができたと考えられる。</p> <p>2. 実施状況等調査 (ヒアリング) について (15 時 55 分～17 時 20 分)</p> <p>・概要:</p> <p>今年度の実施計画・予算及び個人情報の管理について確認した。参加者を確保するために単発のイベントではなく、シリーズ化しており、この工夫に手ごたえを感じている旨、説明があった。</p> <p>その他、本助成事業に係る意見交換を行い、要望等を伺った。</p>